講　評

農研機構　畜産研究部門
動物行動管理研究グループ上級研究員　平田先生

農林水産省消費安全局
動物衛生課 課長補佐(当時)　永田先生

- 昨年度の死体捜索中心から内容が上乗せされ、死体処理・柵設置など作業全体を確認できるものであった。また、林業、建設業など様々な分野から参加があったことも評価できる。
- 今回の演習はポイントを押さえており、効率的に作業内容が把握できるものであった。

意見・課題

【参加者アンケートで出された意見の例】

- 「アフリカ豚熱の早期発見、対応の重要性を理解できた。」
- 「ナッジ手法の有効性を分かり易く説明していただいた。」
- 「演習は４班に分かれて一通りの作業が経験できて具体的にイメージできた。」
- 「採材作業の際に、汚染が心配される場面があった。」
- 「山林内での作業は未知数だと思います。」

【今後の課題】

- 市町村及び団体支部への説明、理解促進
- 作業委託の検討
- 地域段階での体制整備

令和７年度の取組み

○マニュアルの策定

- 過去２回実施した演習で得られた実務上の経験や課題、事務手続き上の課題について検討した結果を踏まえ、令和７年４月１日付けでマニュアルを策定

◇岐阜県家畜伝染病防疫作業マニュアル（野生いのししにおけるアフリカ豚熱対策）

・マニュアル本体

・各手順書（実行計画策定、積極的死体捜索及び死体対応、捜索班、処理班、運搬班）

なお、区域が限定され所有者が明確な畜舎と異なり、区域が広大で、日常的に人や車両の往来があり、所有者や権利関係の整理が困難なうえ、野生生物の危害リスクがの高い山林等を相手にするものであることから、随時の見直しを行い、想定と現実との乖離の解消を図る必要がある。

○実地演習の実施（３か年目）

- 積極的死体捜索により発見された死亡いのししの検体採取など技術的対応をテーマとした演習を計画。マニュアルの検証、作業手順の確認、死亡個体からのサンプル採取等の実習によりサーベイランスの信頼性向上を目指す。

ご清聴ありがとうございました